

科目名	臨床運動学						
担当講師	未定						
実務経験の概要							
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	演習 実習						

授業概要

正常運動が困難な人体を機能と運動 動作の観点から分析し、理解を深める学修します。

学修到達目標

1. 臨床における姿勢・動作分析のメカニズムの分析の必要性を理解し、述べることができる。
2. 動作のメカニズムを阻害する要因を分析し述べるができる。
3. 疾患特性による姿勢・動作の特徴と阻害要因を分析し、述べるができる。

授業計画

- 第1回 臨床における姿勢・動作分析の目的・メカニズム分析とは
- 第2回 動作障害に関与する機能障害
- 第3回 基本動作のメカニズムと阻害する要因①
- 第4回 基本動作のメカニズムと阻害する要因②
- 第5回 歩行のメカニズムと阻害する要因①
- 第6回 歩行のメカニズムと阻害する要因②
- 第7回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患①
- 第8回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患②
- 第9回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患③
- 第10回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 運動器疾患④
- 第11回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患①
- 第12回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患②
- 第13回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患③
- 第14回 疾患特性による姿勢・動作の特徴と分析 中枢神経疾患④
- 第15回 臨床運動分析 まとめ

評価方法

課題レポート

教科書

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

科目名	栄養学						
担当講師	高橋静恵						
実務経験の概要	管理栄養士 医療施設において実務経験を持つ。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義 グループワーク						

授業概要

栄養管理の必要性，リハビリテーション栄養について学習します。

学修到達目標

基本的な栄養，リハビリテーション栄養の知識の習得。
リハビリテーション栄養の実践へ向けての検討ができる。

授 業 計 画

第1回	リハビリテーションに必要な栄養学
第2回	栄養素の役割
第3回	リハビリテーション栄養(リハ栄養アセスメント・診断推論)
第4回	〃 (リハ栄養診断)
第5回	〃 (リハ栄養ゴール設定、リハ栄養介入)
第6回	〃 (リハ栄養モニタリング)
第7回	〃 (応用・疾患別)
第8回	〃 (応用・疾患別)
第9回	
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

評価方法

筆記試験

教科書

リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版) 必要に応じて資料配付

参考図書・文献

PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養(医歯薬出版) リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎(医歯薬出版)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

栄養管理とリハビリテーションの関連について学習します。改めて毎日の食事(栄養)の大切さを考えてみて下さい。

科目名	薬理学						
担当講師	ハサン アリフ ウル 小原 真美						
実務経験の概要	ハサン アリフ ウル ：医師 病院にて、医師として実務経験を有する。 小原 真美 ：薬剤師 病院にて、薬剤師として実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

投薬治療の必要性と各種薬剤の効果や副作用，リハビリテーション実施時に見られる薬剤の相互作用，薬理学からみたり
リハビリテーションにおける薬剤に関する注意事項などについて理解する。

学修到達目標

1. 薬物の種類，特徴，作用機序を説明できる。
2. 薬物に対する生体の反応を説明できる。
3. 病態とその薬物治療を説明できる。
4. 薬物の相互作用や薬物動態を説明できる。
5. 服薬の基本、コンプライアンスを説明できる。

授 業 計 画

第1回	薬の作用様式と作用機序	小原 真美
第2回	薬物動態	小原 真美
第3回	自立神経	小原 真美
第4回	呼吸器作用薬（COPD、誤嚥性肺炎など）、感染症	ハサン アリフ ウル
第5回	消化器作用薬	ハサン アリフ ウル
第6回	鎮痛・抗炎症薬と麻薬、抗アレルギー薬	小原 真美
第7回	代謝治療薬（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症治療薬）	ハサン アリフ ウル
第8回	利尿剤，泌尿器作用薬	小原 真美
第9回	循環器疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第10回	睡眠薬，抗不安薬，抗てんかん薬	小原 真美
第11回	脳血管疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第12回	パーキンソン病・アルツハイマー病治療薬	ハサン アリフ ウル
第13回	抗精神病薬、抗うつ薬、ADHD治療薬	小原 真美
第14回	抗悪性腫瘍薬	ハサン アリフ ウル
第15回	フレイル，サルコペニア，ポリファーマシーなど	ハサン アリフ ウル

評価方法

進級試験を100点満点として60点以上を合格とする。

教科書

「リハベリック 薬理学・臨床薬理学」 内山靖・藤井浩美・立石雅子 医歯薬出版株式会社 2020年

参考図書・文献

「機能・活動・参加とQOLを高めるリハビリテーション薬剤」 若林秀隆 じほう 2019年
「薬がみえる Vol.1～4」 メディックメディア

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

復習として参考図書の使用を推奨。授業中に出題された問題については説明できるようにしておくこと。

科目名	摂食嚥下学						
担当講師	阿部信之 戸来幸恵						
実務経験の概要	阿部信之 : 言語聴覚士 一般病棟、回復病棟、療養病棟での言語聴覚療法(成人領域)の実務経験を有 戸来幸恵 : 理学療法士 医療施設・障がい児施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義/実技						

授業概要

摂食嚥下障害に対する基礎から応用の理解を深め、理学療法士が可能な治療との関係を理解できるよう学習する。

学修到達目標

1. 摂食嚥下についての解剖・生理について理解できる。
2. 嚥下障害患者へのアプローチについて理解できる。
3. 嚥下障害患者への他職種による連携を理解できる。
4. 食事場面での姿勢調整について理解できる。

授 業 計 画

第1回	摂食嚥下障害の総論, 摂食嚥下障害の解剖	阿部信之
第2回	摂食嚥下障害の生理①	阿部信之
第3回	摂食嚥下障害の生理②	阿部信之
第4回	摂食嚥下障害への介入	阿部信之
第5回	摂食嚥下障害患者の栄養、チームアプローチ	阿部信之
第6回	摂食嚥下障害の原因・症状・合併症・悪化誘因	戸来幸恵
第7回	良好な嚥下機能を引き出すポジショニングと援助のポイント	戸来幸恵
第8回	事例検討	戸来幸恵
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

評価方法

筆記試験

教科書

必要に応じて資料配布

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

他職種連携論の言語聴覚部門と解剖学、生理学の復習を行って講義に臨んで下さい。(阿部)
解剖学、生理学の復習を行って講義に臨んでください。(戸来)

科目名	多職種連携論 II						
担当講師	中嶋奈津子						
実務経験の概要	理学療法士 医療施設、介護保険関連施設にて実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	前期
授業形態	講義・演習						

授業概要

主に演習を通して臨床現場における多職種連携の在り方や関わり方を学修します。

学修到達目標

1. 対象者の課題を理解し、他職種と共有することの重要性が理解できる。
2. 他職種と協働しながら、理学療法士の視点で課題の解決に向けて行動することの重要性が理解できる。

授 業 計 画

- 第1回 多職種の理解と多職種連携の在り方①（演習）
- 第2回 多職種の理解と多職種連携の在り方②（演習）
- 第3回 医療施設における多職種連携①（演習）
- 第4回 医療施設における多職種連携②（演習）
- 第5回 在宅における多職種連携①（演習）
- 第6回 在宅における多職種連携②（演習）
- 第7回 多職種連携における理学療法士の資質①（演習）
- 第8回 多職種連携における理学療法士の資質②（演習）
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

レポート課題

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

講義予定は進行度合いを勘案しながら適宜変更の可能性があります。

科目名	社会保障論						
担当講師	佐藤浩哉 上田大介						
実務経験の概要	佐藤浩哉 : 理学療法士 医療施設、介護保険関連施設において実務経験を有する。 上田大介 : 社会福祉士 医療施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態							

授業概要

社会保障制度の意義、目的、制度内容を学ぶ。
理学療法士として知っておくべき制度について理解する。

学修到達目標

1. 社会保障制度の対象や制度の内容について理解する。
2. 社会保障制度と理学療法士の関わりについて理解する。
3. 医療保険や介護保険について患者に説明することができる。

授 業 計 画

第1回	社会保障の概念・対象・理念	佐藤浩哉
第2回	医療保険制度の概要	佐藤浩哉
第3回	医療保険で提供されるサービス	佐藤浩哉
第4回	在宅医療を支える制度とサービス	佐藤浩哉
第5回	障害者総合支援制度 後期高齢者医療制度	佐藤浩哉
第6回	生活保護制度、生活困窮者自立支援法、老人福祉法	佐藤浩哉
第7回	育児・介護休業法 高齢者住まい法 個人情報保護法	佐藤浩哉
第8回	成年後見制度 高齢者虐待 労災保険制度 雇用保険	佐藤浩哉
第9回	日本の少子化対策をどう考えるか？	佐藤浩哉
第10回	ベーシックインカムをどう考えるか？（グループワーク）	佐藤浩哉
第11回	振り返り	佐藤浩哉
第12回	介護保険制度の概要	上田大介
第13回	介護保険で提供されるサービス①	上田大介
第14回	介護保険で提供されるサービス②	上田大介
第15回	年金制度の概要	上田大介

評価方法

筆記試験 佐藤浩哉担当範囲70% 上田大介担当範囲（30%）

教科書

プリント教材

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

必要に応じて演習やグループワークを取り入れる予定。講義予定については、随時変更の可能性有(佐藤)

科目名	地域生活環境論						
担当講師	長野由紀江						
実務経験の概要	理学療法士：医療施設において実務経験をもつ。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	15	開講時期	後期
授業形態	講義 演習						

授業概要

理学療法の対象となる人々が地域で生活するための生活環境の現状や課題を理解し、生活環境整備する過程を学ぶ。

学修到達目標

1. バリアフリー・ユニバーサルデザイン化による地域環境の現状と課題を述べることができる。
2. 社会制度と生活環境の関わりを述べるができる。
3. 生活環境の概念・評価・整備について理解し、演習で実践ができる。

授 業 計 画

- 第1回 地域環境の現状
- 第2回 地域環境の調査と課題 演習①
- 第3回 地域環境の調査と課題 演習②
- 第4回 生活環境の概念(構成する要素、ICFとの関連 理学療法との関連性)
- 第5回 社会制度と生活環境
- 第6回 生活環境の評価と整備の視点
- 第7回 生活環境の評価と整備 演習①
- 第8回 生活環境の評価と整備 演習②
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

評価方法

課題レポート

教科書

プリント教材

参考図書・文献

日常生活活動学テキスト(南江堂)

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

自分を取り巻く社会や生活環境に興味をもって授業に臨んで下さい。